

日本感情心理学会第27回大会

大会プログラム



東海学園大学 名古屋キャンパス（愛知県名古屋市）

プレカンファレンス 2019年6月28日（金）

本大会 2019年6月29日（土）・30日（日）





ご挨拶

日本感情心理学会第 27 回大会は東海学園大学心理学部が引き受けさせていただくこととなりました。開催日は 2019 年 6 月 28 日（金）～ 30 日（日）となります。よろしく願い申し上げます。

東海学園大学心理学部は 2018 年に開設されました。心理学の名を冠するわが国の学部としては最も若い学部のひとつと言えます。この感情心理学会大会を機にお見知り置きいただければ幸いに存じ上げます。

さて、情報技術革命の渦中にある現在、人間の生み出す多様かつ膨大なデータが刻々と集積され、解析技術は急速に進歩しています。今後数十年間で、人間に関する諸科学は必然的に大きな変革を迫られるでしょう。端的に言って、われわれ心理学者の伝統的な理論や方法が明日もそのまま使える保証はありません。こんな時こそ慌てず騒がず、一歩引いたロングスコープで自身の研究の立ち位置を眺め直すのが有益ではないでしょうか。

そこで本大会では、長らくベールに包まれておりました大会テーマを、「感情をメタな視点で考える」といたしました。

大会には、名古屋の誇る斯界のスター、戸田山 和久先生と小田 亮先生をお招きして特別講演にご登壇いただきます。戸田山先生は哲学、小田先生は行動進化学のそれぞれのお立場から、伝統的な感情心理学研究に対して挑発的な論点が提起されます。

また、すっかり定着した大会前日（6 月 28 日）のプレカンファレンスには、2 件の企画にスタンバイしていただいております。

そして若手中心のシンポジウムのタイトルは、「感情の功罪を考える一基礎，社会，臨床から」となりました（企画者：山川 香織・高田 琢弘）。そこでは、感情の内的過程にとどまらず、感情が生み出すアウトカムが評価され議論されます。

いずれもメタな発想を刺激し、感情心理学の今後を占う魅力的な知の饗宴となりましょう。

このような硬派かつ直球勝負の企画に加え、何よりも、万難を排してエントリーくださった先生方の力のこもった個別発表により大会メニューが構成されます。本大会内容がご参加の皆様にご益すること、一点の疑念もありません。

その一方、私どもの学部は大学院をもたないため、運営のマンパワーはいくぶん脆弱です。当日は、本学部関連教員ならびに有志学生の総力体制にて粗相なきよう努めて参りますものの、行き届かぬ点、未熟な点が多々あるかと存じます。何とぞご寛恕のほどお願い申し上げます。

碌なおもてなしもできませんが、にもかかわらず多くの先生方から御来学の栄を賜りたくスタッフ一同衷心よりお願い申し上げ、感情心理学会東海学園大学大会のご挨拶とさせていただきます。

日本感情心理学会第 27 回大会実行委員会
大会委員長 河野 和明



大会会場へのアクセス

名古屋市営地下鉄 鶴舞線 「原」 駅下車

□ 2番出口から 徒歩20分

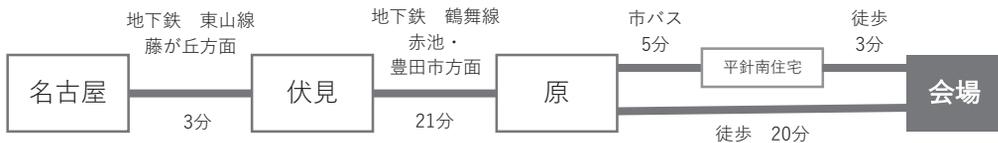
または

□ 2番出口より 市バス「地下鉄原」から 「平針南住宅」下車（大人210円）

バス停から徒歩3分

※「地下鉄原」発のバスは、1番のりば2番のりばともに、すべて「平針南住宅」を通ります
バスは5～10分間隔で運行しています

自家用車の入構はできませんので、公共交通機関をご利用ください。



東海学園大学名古屋キャンパス 案内図

正門より、3号館へお越しください。受付は入口奥に設置されています。

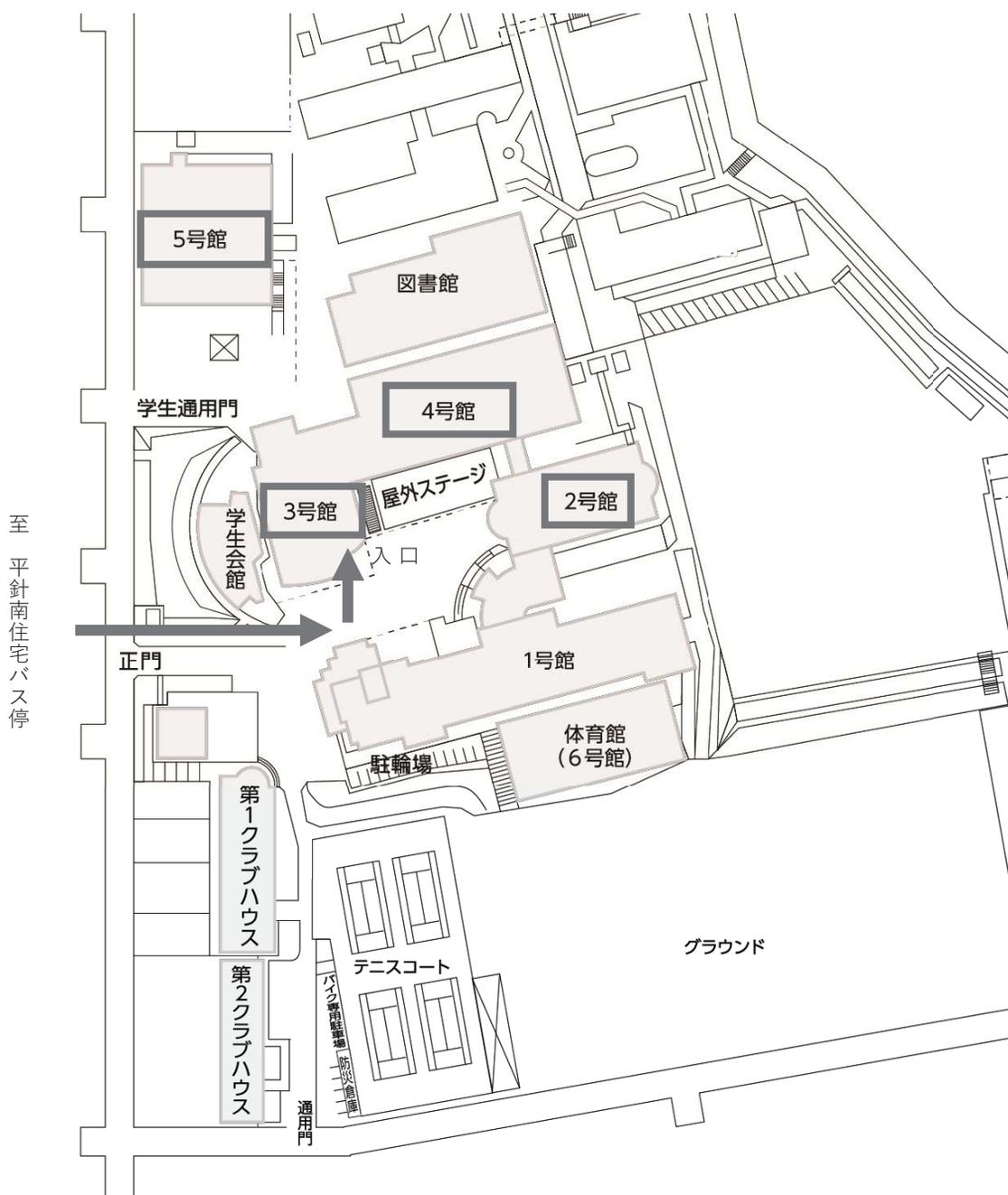
2号館／B階 常任理事会，理事会

3号館／3階 特別講演，シンポジウム，口頭発表，総会

4号館／2階 ポスター発表会場，クローク，休憩室，展示，編集委員会，本部

5号館／1階 懇親会会場

※ 3号館および4号館の入口階は2階です

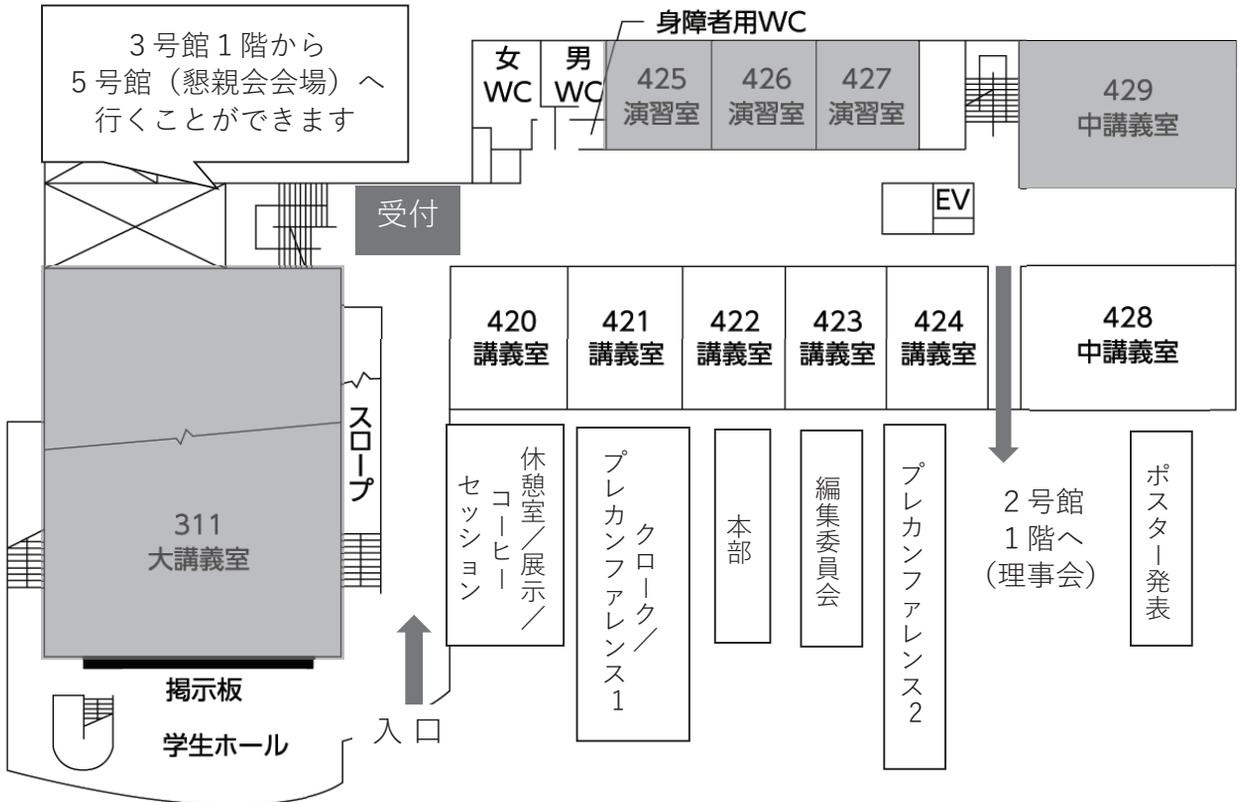


会場案内

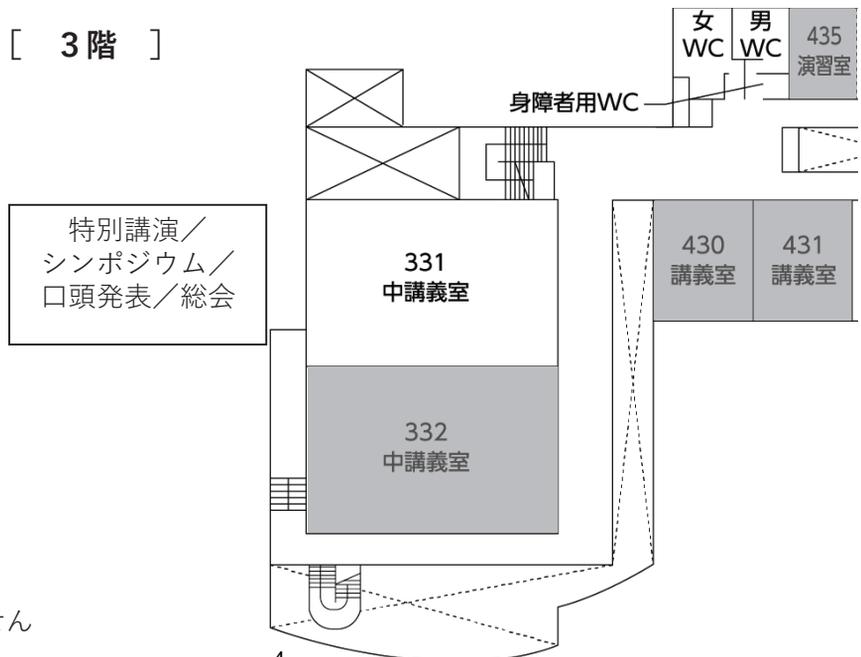
3号館 / 4号館

※ 入口階は2階です

[2階]



[3階]

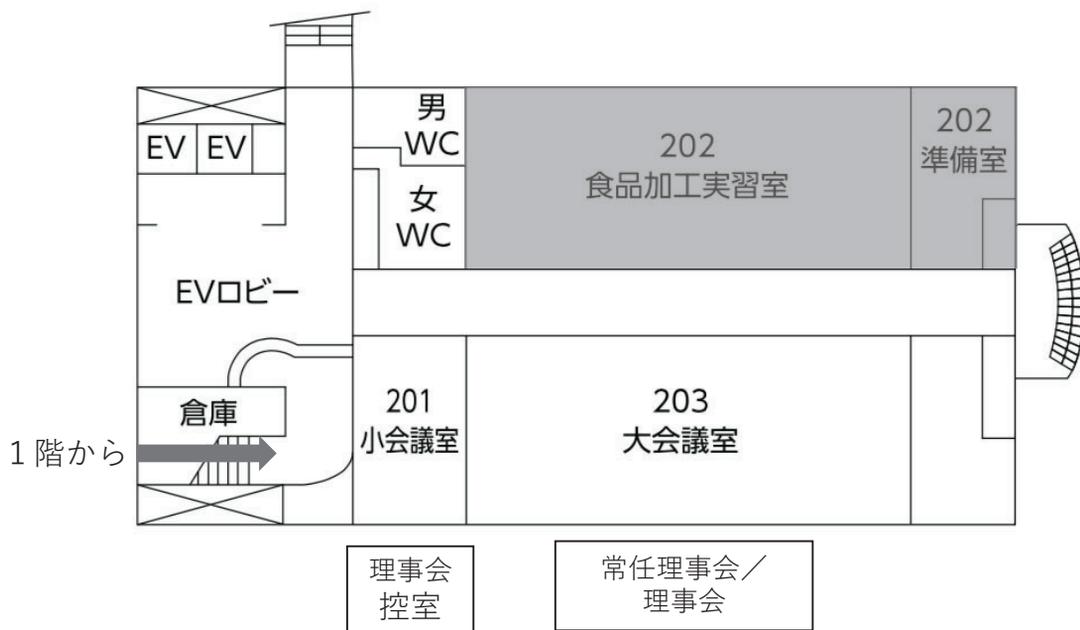


■ の部屋は使用しません

2号館

※ 入口階は1階です

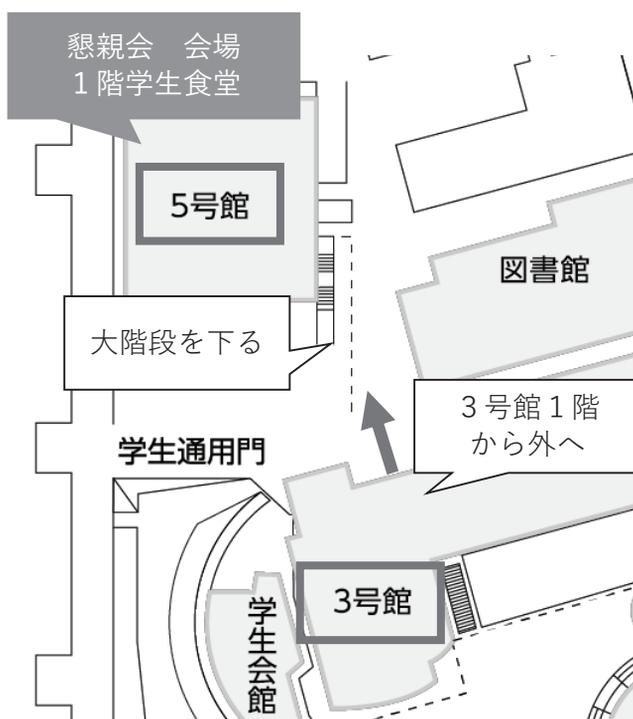
[B階]



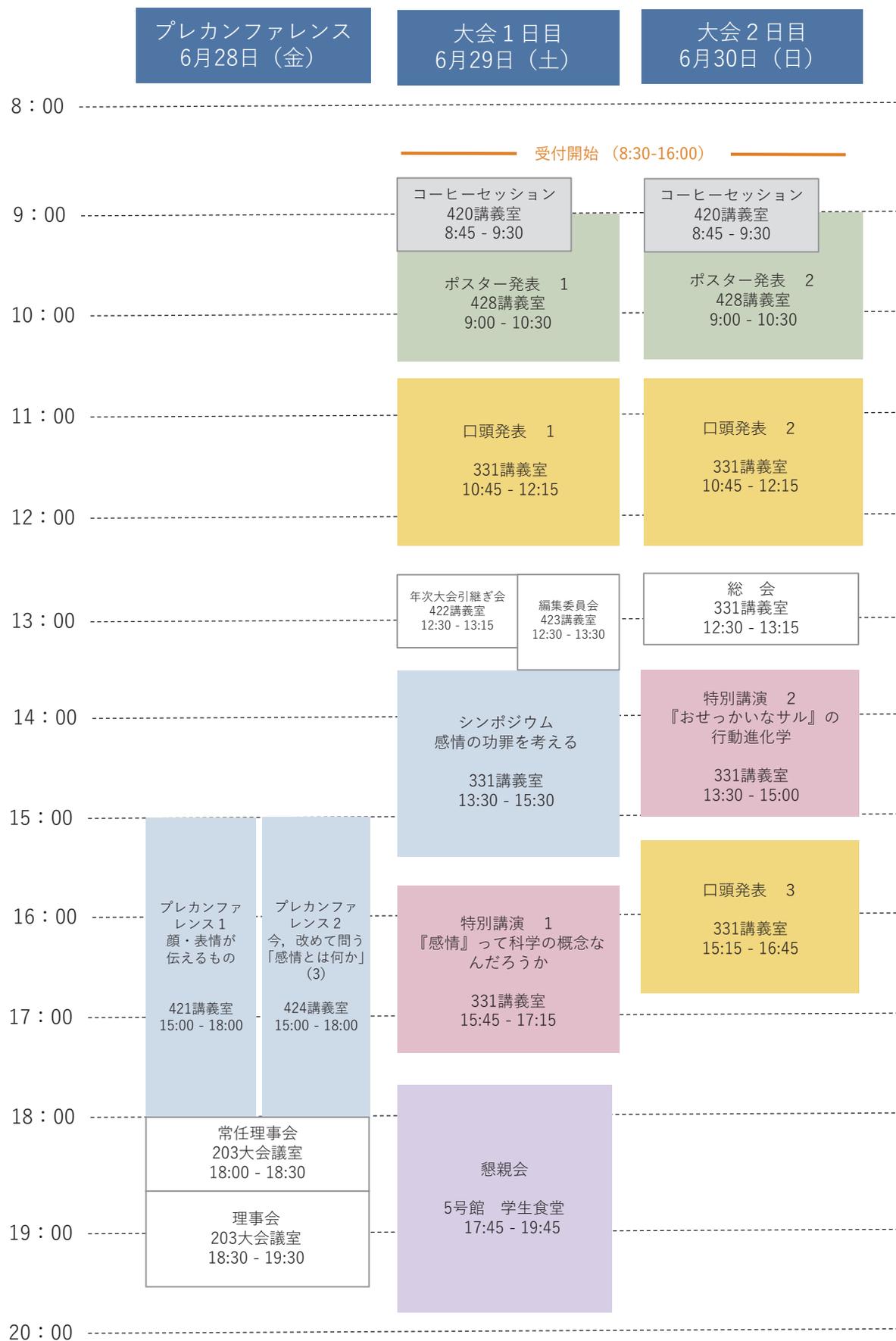
懇親会会場への行き方

3号館1階から一度外へでていただき、大きな階段を下りたところに1階学生食堂がございます。

なお、会期中学生食堂は営業しておりませんので、ご注意ください。



大会スケジュール



大会行事等

1. 一般研究発表

6月29日(土)、30日(日)の両日、口頭発表(3セッション)とポスター発表(2セッション)が行われます。発表会場は口頭発表が331講義室、ポスター発表が428講義室です。

2. 特別講演

2つの特別講演が企画されています。6月29日(土)の15時45分から特別講演1『『感情』って科学の概念なんだろうか』が、6月30日(日)13時30分から特別講演2『『おせっかいなサル』の行動進化学』が開催されます。いずれも会場は331講義室です。

3. シンポジウム

6月29日(土)13時30分からシンポジウム「感情の功罪を考えるー基礎・社会・臨床からー」が331講義室にて開催されます。

4. プレカンファレンス

6月28日(金)の15時00分から2つのプレカンファレンス企画が開催されます。プレカンファレンス企画1「顔・表情が伝えるもの」は421講義室にて、プレカンファレンス企画2「今、改めて問う「感情とは何か」(3)ー研究方法からみる「感情とは何か」ー」は424講義室にて開催されます。

5. 総会

本年度の総会は6月30日(日)の12時30分から331講義室にて開催されます。

6. 各種委員会

① 常任理事会は6月28日(金)18時00分~18時30分、理事会は6月28日(金)18時30分~19時30分に開催されます。会場はともに203大会議室です。201小会議室を控室としてご利用ください。

② 編集委員会が6月29日(土)12時30分~13時30分に423講義室にて開催されます。

③ 年次大会引き継ぎ会が6月29日(土)12時30分~13時15分に422講義室にて開催されます。

7. コーヒーセッション

6月29日(土)、30日(日)いずれも8時45分~9時30分の時間帯に、特に若手会員を対象にして感情心理学研究の編集委員長と直接お茶を飲みながらお話できるセッションを、420講義室の休憩室の一角に設けます。フランクなお話ができる機会なので、有効にご活用ください。

8. 懇親会

6月29日(土)17時45分~19時45分の時間帯に、大学構内5号館1階学生食堂にて懇親会を開催いたします。大会参加者同士が直接交流できる機会ですので、是非ご参加ください。

9. 展示

420講義室に展示スペースを設けます。休憩室と併用ですので、是非お立ち寄りください。

大会参加者へのご案内

1. 大会受付

場 所／ 東海学園大学名古屋キャンパス 3号館 2階

※3号館は2階が入口階になります

時 間／ 6月29日(土) 8時30分～16時00分

6月30日(日) 8時30分～16時00分

2. 大会参加費

(1) 事前予約参加の方

受付に直接お越し下さい。受付でお名前を伺い予約参加について確認致します。確認後、参加証をお渡し致します。

(2) 当日参加（非会員を含む）の方

受付にて下記参加費をお支払いください。

・大会参加費

会員区分		予約参加	当日参加
正会員	一般	6,000円	7,000円
	院生	5,000円	6,000円
非会員	一般	7,000円	8,000円
	院生	6,000円	7,000円
学生	会員	1,000円	1,500円
	非会員	1,500円	2,000円

・懇親会費

会員区分	予約参加	当日参加
一般	5,000円	6,000円
院生・学生	3,500円	4,000円

3. クローク

6月29日(土)と30日(日)の大会期間中、421講義室に設けております(6月28日(金)のプレカンファレンス時は設けておりませんのでご注意ください)。ただし、貴重品の管理は各自の責任でお願いいたします。なお、クロークの開設時間は8時30分～17時30分です。懇親会にご出席の方は、預けた荷物をクロークから受け取った後ご参加ください。

4. 昼食

大会当日は大学の学内食堂および売店は営業していません。会場周辺の飲食店・コンビニエンスストア等をご利用ください。学会当日には受付にてお食事処マップをお配りする予定です。

5. 無線 LAN

6月28日（金）、29日（土）、30日（日）は学内の無線 LAN をご利用いただけます。詳細は受付でお配りしております案内をご覧ください。28日（金）は各プレカンファレンス会場で、お配りいたします。

6. 当日連絡先

本部／052-801-6913

※通常、この番号は事務局長の直通電話となっておりますが、会期中（29-30日）は本部へ転送されます。

※28日は事務局メールアドレス jsre2019.tokaigakuen@gmail.com にご連絡ください。

研究発表者へのご案内

1. 口頭発表

- ・ 口頭発表は、会場に Windows ノート PC (Windows 10 Enterprise) を 1 台ご用意いたします。使用可能なソフトウェアは PowerPoint (Microsoft Office 2013 Professional Plus) のみです。インターネットへの接続も可能です。なお、発表会場には VGA/HDMI 接続ケーブルが備え付けられており、持参したノート PC のご使用も可能です。ただし、Mac の場合は正常動作の確約ができないため、変換ケーブルをご持参の上、自己責任でご使用ください。会場ノート PC を使用される方は、ご発表前に USB メモリ等にデータを入れてご持参ください。
- ・ 口頭発表 1 題の持ち時間は、質疑応答を含めて 15 分間です。
経過時間に合わせて、卓上ベルを鳴らして合図いたします。
10 分経過時 / 1 鈴
12 分経過時 (発表終了の目安) / 2 鈴
15 分経過時 (質疑応答を含む発表終了) / 3 鈴

2. ポスター発表

- ・ 掲示用ボードのサイズはヨコ 90cm × タテ 180cm です。このサイズに収まるようにご作成願います。ポスター貼付用のピンは会場にご用意いたします。会場での印刷は致しかねますのでご了承ください。
- ・ 責任在席時間
90 分のポスターセッション中、発表番号が奇数の方は前半 45 分間が、偶数の方は後半 45 分間が責任在席時間です。責任在席時間開始後 20 分前後の時間帯に会場係が確認に参りますので、ご協力ください。
- ・ 自由掲示時間
ポスター発表会場は正規の掲示時間にかかわらず、大会 1 日目は 17 時 15 分、大会 2 日目は 16 時 25 分まで使用できます。発表ご担当の方は夕方までポスターを掲示し、自由にディスカッションしていただいてもかまいません。なお、時間を過ぎても掲示されているポスターは大会実行委員会が撤去・処分いたします。悪しからずご了承ください。

3. 抄録提出

実際の発表に加え、発表抄録を作成いただき期限までに提出いただくことが、発表を公式に記録する要件となります。なお、事前に抄録を提出された発表が次項に示す大会発表賞の選考対象となります。提出期限および詳細は以下の通りですので、締切厳守をお願い申し上げます。

提出期限／ 大会発表賞選考対象期限 2019年5月31日(金)24時
通常発表最終期限 2019年7月7日(日)24時
送付先／ 日本感情心理学会第27回大会実行委員会
jsre2019.tokaigakuen@gmail.com (@を半角に変更して送信してください)
抄録様式／ 大会HP (<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2019/submit.html>) をご確認ください。

4. 大会発表賞について

・ 大会発表賞種別

優秀研究賞／学術的・社会的・教育的意義などの観点から総合的に判断して、本大会の研究発表中、最も優れていると評価する研究発表に対して授賞します。

独創研究賞／内容・テーマ・方法などに関して、特にアイデアとしての独創性が高いと評価する研究発表に対して授賞します。

グッドプレゼンテーション賞／主としてポスターやパワーポイントの出来映えを中心に、特に発表の仕方が優れていると評価する研究発表に対して授賞します。

精励発表賞／年次大会の研究発表を第一著者として繰り返し(5回)発表している会員に対して授賞します。なお、精励発表賞は自己申告制となっております。詳細は大会HPで確認ください(<http://jsre.wdc-jp.com/conf/2019/submit.html>)。

・ 提出期限

① 優秀研究賞, 独創研究賞, グッドプレゼンテーション賞 選考対象
2019年5月31日(金)24時まで抄録を提出する必要があります。

② 精励発表賞 選考対象
2019年7月30日(火)24時まで必要書類を学会事務局へ郵送にて提出する必要があります。

・ 表彰

受賞者決定後本人に通知し、メールニュースで公表するとともに、次年度の年次大会(第28回大会)の総会および懇親会にて表彰いたします。なお、受賞者は次年度大会の懇親会参加費が免除されます。

5. 発表の取り消しについて

何らかの事情により、参加・発表の取り消しを希望される方は出来るだけ早く大会実行委員会(jsre2019.tokaigakuen@gmail.com)にお知らせください(@を半角に変更して送信してください)。なお、参加・発表申込み期限内に登録を完了され、参加・発表期限後に、参加・発表を取り消される場合は、すでにご入金いただいた参加費等の返金については対応することができません。予めご了承のほどお願いいたします。

発表プログラム

注) #印は日本感情心理学会非会員であることを示す
(特別講演, シンポジウム, プレカンファレンスは除く)

特別講演

特別講演1 「感情」って科学の概念なんだろうか

6月29日(土) 15:45 ~ 17:15 3号館 331 講義室

司会：山川 香織 (東海学園大学心理学部)

講師：戸田山 和久 (名古屋大学大学院情報学研究科)

特別講演2 「おせっかいなサル」の行動進化学

6月30日(日) 13:30 ~ 15:00 3号館 331 講義室

司会：河野 和明 (東海学園大学心理学部)

講師：小田 亮 (名古屋工業大学大学院工学研究科)

シンポジウム

感情の功罪を考えるー基礎・社会・臨床からー

6月29日(土) 13:30 ~ 15:30 3号館 331 講義室

企画：高田 琢弘・山川 香織 (東海学園大学心理学部)

司会者：高田 琢弘・山川 香織 (東海学園大学心理学部)

話題提供者：木村 健太 (産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター)

関谷 大輝 (東京成徳大学応用心理学部)

松本 昇 (名古屋大学大学院情報学研究科)

指定討論者：大平 英樹 (名古屋大学大学院情報学研究科)

プレカンファレンス

プレカンファレンス 1

顔・表情が伝えるもの

6月28日(金) 15:00 ~ 18:00 4号館 421 講義室

企画者：難波 修史 (広島大学)

話題提供者：難波 修史 (広島大学)

中村 航洋 (早稲田大学)

熊野 史朗 (NTT)

指定討論者：小森 政嗣 (大阪電気通信大学)

梅村 浩之 (産業技術総合研究所)

プレカンファレンス 2

今、改めて問う「感情とは何か」(3) —研究方法からみる「感情とは何か」—

6月28日(金) 15:00 ~ 18:00 4号館 424 講義室

企画者：武藤 世良 (お茶の水女子大学)

白井 真理子 (同志社大学)

話題提供者：山本 晶友 (上智大学)

森 数馬 (NICT, CiNet)

浦野 由平 (東京大学)

一般研究発表 口頭発表 1

6月29日(土) 10:45 ~ 12:15 3号館 331 講義室

座長：岩佐 和典（就実大学）

OS01. 自伝的潜在連合テスト時の生理活動に関する予備的検討

小川 時洋（科学警察研究所法科学第四部情報科学第一研究室）

OS02. 心周期は報酬関連刺激の処理を調節する - 事象関連脳電位を用いた検討 -

木村 健太（産業技術総合研究所）

OS03. 「同質の原理」に基づいた視聴覚融合による音楽の供与方法

- 「イメージ奏法」が心身に与える心理学的・医学的検証-

武本 京子（愛知教育大学教育学部創造科学系音楽教育講座）

伊藤 康宏[#]（藤田医科大学）

石原 慎[#]（藤田医科大学）

川井 薫[#]（藤田医科大学）

飯田 忠行[#]（県立広島大学）

加藤 みわ子[#]（広島都市学園大学）

OS04. 人間計測とエスノグラフィを統合した製品使用価値の抽出方法に関する研究

梅村 浩之（産業技術総合研究所人間拡張研究センター）

木村 健太（産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター）

藤村 友美（産業技術総合研究所人間拡張研究センター）

安井 圭子[#]（パナソニック株式会社アプライアンス社）

OS05. 情動経験の持続時間と注意持続時間の関係 - どちらが長いか -

金子 迪大（京都大学大学院／日本学術振興会）

鷹阪 龍太（東洋大学大学院）

OS06. 不快な濡れ質感のオノマトペ表現

岩佐 和典（就実大学）

佐藤 太智（明治大学）

小松 孝徳[#]（明治大学）

一般研究発表 口頭発表 2

6月30日(日) 10:45 ~ 12:15 3号館 331 講義室

座長：北村 英哉 (東洋大学)

OS07. 情報を繰り返し案内する際の定型案内が鉄道旅客の確信と怒りに与える影響

菊地 史倫 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

山内 香奈[#] (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

OS08. 清浄志向/ケガレ忌避傾向尺度の作成と信頼性・妥当性の検討

北村 英哉 (東洋大学社会学部)

松尾 朗子[#] (名古屋大学大学院環境学研究科)

OS09. 準備をすれば失敗しない

—準備期間の有無がスピーチ時の「あがり」に与える影響—

小笠原 香苗 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

中川 敦子[#] (名古屋市立大学大学院人間文化研究科)

OS10. 心的取り消しが感謝に及ぼす影響 —日常的な親切場面のシナリオを用いた検討—

山本 晶友 (上智大学大学院総合人間科学研究科心理学専攻)

樋口 匡貴 (上智大学総合人間科学部)

OS11. 個人内感情制御と対人的感情制御の関係性 —交差遅延モデルを用いた検討—

小林 亮太 (広島大学大学院教育学研究科/日本学術振興会)

中島 健一郎[#] (広島大学大学院教育学研究科)

中尾 敬 (広島大学大学院教育学研究科)

OS12. 筆記開示法における利用意欲の上昇 —ベースライン期と1ヶ月後フォローアップ期の比較—

大石 彩乃 (お茶の水女子大学)

一般研究発表 口頭発表 3

6月30日(土) 15:15 ~ 16:45 3号館 331 講義室

座長：樋口 匡貴 (上智大学)

OS13. 「同類だと思われたら困る」から恥ずかしい? : 観察者羞恥における集団成員性とその顕現化の影響

樋口 匡貴 (上智大学総合人間科学部)

春田 悠佳 (上智大学大学院総合人間科学研究科)

山本 晶友 (上智大学大学院総合人間科学研究科)

林田 愛由# (上智大学総合人間科学部/現所属株式会社日立社会情報サービス)

OS14. 恋人か、そうでないか、それが問題だ

—主目標の理想度と代替目標の関係を調整する要因についての検討—

服部 陽介 (京都先端科学大学人文学部)

OS15. 企業の顔は語る—経営者の笑顔と純利益との関連—

藤原 健 (大阪経済大学)

OS16. 平成の終わりにわれわれは何を感じるか?

白井 真理子 (同志社大学)

木村 年晶 (京都橘大学)

OS17. からかい・いじめ強化に対する教室の協調的文脈と妬み特性の効果

一言 英文 (福岡大学人文学部)

澤田 匡人 (学習院女子大学国際文化交流学部)

OS18. 感謝行動が日常生活に与える変化

牧 久美子 (龍谷大学大学院文学研究科)

一般研究発表 ポスター発表 1

6月29日(土) 9:00 ~ 10:30 4号館 428 講義室

*奇数番の発表者の責任在席時間は9:00~9:45, 偶数番の方の責任在席時間は9:45~10:30です。

PS01. 「うらみ」と反芻および自閉症スペクトラム障害との関連性

—再評価方略の調整効果への着目—

鈴木 拓朗 (東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻臨床心理学コース)

PS02. 制御焦点と認知的感情制御が後悔とその後のポジティブな変容に及ぼす影響

伊藤 拓 (名古屋大学教育発達科学研究科)

PS03. ポジティブに考え続けるほど良い? : 肯定的再評価の実施時間と効果の関連

榊原 良太 (鹿児島大学)

PS04. ネガティブな気分に対する反応スタイルの適応性と注意機能の関連性の検討

石川 遥至 (早稲田大学文学学術院)

越川 房子 (早稲田大学文学学術院)

PS05. 心拍弁別課題における反応バイアスは認知的再評価と関連するか

本多 樹 (広島大学大学院教育学研究科)

小林 亮太 (広島大学大学院教育学研究科)

中尾 敬 (広島大学大学院教育学研究科)

PS06. タッピングタッチはどんな人にも効果があるのか? その8

—他者からの否定的評価に対する恐れを調整変数として—

大浦 真一 (甲南大学)

松尾 和弥 (甲南大学大学院)

福井 義一 (甲南大学文学部人間科学科)

PS07. 敏感さメタ認知と生理的知覚の関係

—自己報告における敏感さと触覚測定値の不一致—

上原 智香子 (明治大学大学院情報コミュニケーション研究科)

PS08. 内受容感覚の鋭敏さと、心拍変動－感情体験の相関性に関する検討

－心拍タッピング課題による内受容感覚の評価－

櫻井 優太（田園調布学園大学人間科学部心理学科）

清水 遵[#]（愛知淑徳大学心理学部）

PS09. 悲しみ想起後のフォーカシング技法を用いた音楽聴取がもたらす心理・生理的反応③

－フォーカシング指向音楽聴取教示の影響－

栗野 理恵子（名古屋産業大学）

清水 遵[#]（愛知淑徳大学）

PS10. テレビ番組視聴による不安低減とレジリエンス効果

－「水曜どうでしょう」の視聴者インタビューと実験を通して－

広田 すみれ（東京都市大学メディア情報学部）

岩淵 睦生（東急バス(株)）

内野 陽二郎(東急ファシリティサービス(株)）

曾根 大誠 ((株)キャンドックシステムズ)

PS11. 有能感の4類型と返礼行動の関連――仮定型に注目して――

澄川 采加（鹿児島大学大学院教育学研究科）

稲垣 勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

PS12. 有能感の4類型とソーシャルスキルの関係

稲垣 勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

澄川 采加（鹿児島大学大学院教育学研究科）

PS13. 児童期における役割取得能力と道徳性の発達段階の関係

本間 優子（新潟青陵大学）

PS14. 中学生における感情制御方略と学校適応感の関連

－ソーシャル・サポートを媒介変数として－

北原 祐理（東京大学大学院教育学研究科）

PS15. 前期高齢者において「むなしさ」が感じられやすくなる要因の検討

大上 真礼（東海大学文化社会学部）

PS16. 看護教育における感情的エンゲージメントに関する文献検討

石井 慎一郎（自治医科大学看護学部）

田村 敦子[#]（自治医科大学看護学部）

冨川 明子（自治医科大学看護学部）

白濱 雅子[#]（自治医科大学大学院看護学研究科博士課程）

路川 達阿起[#]（自治医科大学大学院看護学研究科博士課程）

PS17. シャーデンフロイデと社会的階層との関連

相羽 将智（広島大学総合科学研究科）

坂田 桐子[#]（広島大学総合科学研究科）

PS18. 制度に対する不備の知覚が他者批判的感情に及ぼす影響

福田 哲也（聖カタリナ大学人間健康福祉学部）

一般研究発表 ポスター発表 2

6月30日(日) 9:00 ~ 10:30 4号館 428 講義室

*奇数番の発表者の責任在席時間は9:00~9:45, 偶数番の方の責任在席時間は9:45~10:30です。

PS19. 科学的知識と説明責任は顔にもとづく信頼性判断を抑制できるか

鈴木 敦命 (東京大学 大学院人文社会系研究科 心理学研究室)

PS20. 笑顔表情の主観的強度が表情フィードバック効果に及ぼす影響

橋本 淳也 (広島大学大学院教育学研究科)

難波 修史 (広島大学大学院教育学研究科)

中尾 敬 (広島大学大学院教育学研究科)

PS21. 日常の生活行動と随意的な笑顔表出との関連

中川 文香 (株式会社資生堂)

PS22. 愛着スタイルが喜び表情と怒り表情の弁別に及ぼす影響

松尾 和弥 (甲南大学大学院人文科学研究科/日本学術振興会 DC2)

大浦 真一 (甲南大学/国際心理支援協会)

島 義弘# (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

稲垣 勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

福井 義一 (甲南大学文学部人間科学科)

PS23. サイコパシー特性による利己的な表情認知—顔表情の検出における視線方向の影響について—

大隅 尚広 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所/慶應義塾大学先導研究センター)

PS24. 表情変化に対する敏感さは対人場面における表情模倣に関与するのか

—N170を用いた検討—

谷田 林士 (大正大学 心理社会学部)

PS25. 「経験した人にしかわからない」という感情—発信者のパーソナリティ特性と受信者の感情—

川口 めぐみ (駒澤学園駒沢女子短期大学)

- PS26. 主要 5 因子性格特性と日常の感情経験：経験サンプリング法を用いた調査
大坪 庸介（神戸大学大学院人文学研究科）
- PS27. 情動コンピテンスの個人差
柴田 利男（京都橘大学 健康科学部）
- PS28. 災害を生きる力因子に寄与するパーソナリティ特性：感謝特性, グリット, セリフコントロール
本多 明生（静岡理工科大学情報学部）
杉浦 元亮[#]（東北大学）
阿部 恒之（東北大学 大学院文学研究科心理学講座）
邑本 俊亮[#]（東北大学）
- PS29. 繰り返し想起される自伝的記憶の想起特性について
－ 記憶経験質問紙（Memory Experience Questionnaire）を用いた検討－
関口 理久子（関西大学社会学部）
Sutin Angelina[#]（Florida State University, College of Medicine）
- PS30. 不随意記憶現象における気分一致記憶の検討
野村 拓央（名城大学大学院人間学研究科人間学専攻修士課程）
- PS31. SNS のテキスト分析による道徳的怒りと道徳的嫌悪の弁別性の検討
小西 直喜（神戸大学大学院人文学研究科）
大坪 庸介（神戸大学大学院人文学研究科）
- PS32. 被害者からの赦しによる加害者の罪悪感への影響
古川 善也（愛媛大学教育学部／広島大学教育学研究科）
中島 健一郎[#]（広島大学教育学研究科）
- PS33. 面子回復行為に関する日中比較一日中大学生を対象に－
林 萍萍（大阪商業大学 JGSS 研究センター）

PS34. 共感性を客観的に測定する MET-CORE2 日本語版の妥当性の再検討 (2)

—自閉症スペクトラム群と健常群における比較検討—

福井 義一 (甲南大学文学部人間科学科)

松尾 和弥 (甲南大学大学院)

大浦 真一 (甲南大学大学院人文科学研究科)

稲垣 勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

島 義弘# (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

PS35. 特性尊敬関連感情と理想自己のレパトリーの関連

菅原 大地 (筑波大学)

武藤 世良 (お茶の水女子大学)

特別講演 1

「感情」って科学の概念なんだろうか

6月29日(土) 15:45 ~ 17:15 3号館 331 講義室

講師：名古屋大学大学院情報学研究科 戸田山 和久

心理学ってどうしてもフォーク・サイコロジー由来の概念を捨てきれないよね。「感情」ってのもその一つだ。物理学なんかにはそういうことはあまり見られない。「いきおい」というのは日常的な概念だけど、物理学では出る幕がない。「いきおい」とひとくくりに使われていたものは、速度、運動量、運動エネルギー、角速度、角運動量、慣性モーメント…といった具合にバラバラにされて、それぞれ数学的に定義される。でも、心理学では雑多なもののレッテルに過ぎない「感情」概念を大々的に使っているように見える。感情は果たして科学的概念なんだろうか、いやそもそも「科学的」概念ってなんだ。といったことを反省してみます。

プロフィール

名古屋大学大学院情報学研究科・教授

主な著書に「哲学入門」(ちくま新書)

「新版 論文の教室」(NHK ブックス)

「恐怖の哲学」(NHK 出版新書)他。



特別講演 2

「おせっかいなサル」の行動進化学

6月30日(日) 13:30 ~ 15:00 3号館 331 講義室

講師：名古屋工業大学大学院工学研究科 小田 亮

人間は生物の一種であり、進化の結果として現在のような特徴をもっている。これは単なる思想や仮説ではなく科学的事実である。ゆえに、人間を対象とする科学は、すべからくこの事実に立脚していなければならない。では私たち人間はどういう生物なのかというと、霊長類の一種である。比較行動学の対象として人間をみたとき興味深い特徴のひとつは、たとえ頼まれなくてもわざわざ他人を助けるという、非常におせっかいなところだ。他の霊長類にはこんな行動はみられない。なぜ、人間はこんなにおせっかいなのだろうか？ また、私たちが他人を助けようとするときに働く感情や認知には、どのような適応的意義や進化的な背景があるのだろうか？ 本講演では、まず人間行動を進化の観点から研究しようとする人間行動進化学について概説し、次に人間の利他性の基盤となる認知特性について適応的な観点から何が考えられるのか、またそれをどう実証していくのかについて、具体的な研究例を紹介する。



プロフィール

名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授。1967年徳島県生まれ。1991年東京大学理学部卒。1996年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。京都大学霊長類研究所教務職員、名古屋工業大学講師、准教授を経て現職。専門は自然人類学・比較行動学。霊長類を対象に心と行動の進化について研究している。主な著書に「サルのことば」(京都大学学術出版会、1999年)、「約束するサル」(柏書房、2002年)、「ヒトは環境を壊す動物である」(ちくま新書、2004年)、「利他学」(新潮選書、2011年)他。翻訳書に「乱交の生物学」(ティム・バークヘッド著、新思索社、2003年)、「ヒトはどのように進化してきたか」(ジョン・シルク、ロバート・ボイド著、ミネルヴァ書房、2011年)他。

シンポジウム

感情の功罪を考えるー基礎・社会・臨床からー
6月29日(土) 13:30 ~ 15:30 3号館 331 講義室

企画：高田 琢弘・山川 香織（東海学園大学心理学部）

司会者：高田 琢弘・山川 香織（東海学園大学心理学部）

話題提供者：木村 健太（産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター）

関谷 大輝（東京成徳大学応用心理学部）

松本 昇（名古屋大学大学院情報学研究科）

指定討論者：大平 英樹（名古屋大学大学院情報学研究科）

感情とは進化過程において獲得されたシステムであり、環境の変化に対し生存を有利にするといった適応的な機能があると考えられている。さまざまな環境の変化によって引き起こされた感情が、学習、認知、社会的行動といった種々の側面を調整するという知見からも明らかであろう。しかし実際は、感情が望ましい状態や行動を導くこともあれば、そうでない方向に作用することも報告されている。このような感情機能の功罪に関しては、感情研究領域の広さや定義の難しさから、統一的な見解には至っていない。そこで本シンポジウムでは、基礎・社会・臨床のフィールドでご活躍の先生方から、感情の影響についてご紹介いただいた上で、それぞれの領域を超えた視座から感情機能を捉え直すことを目指し議論する。

一般研究発表 口頭発表 1

6月29日(土) 10:45 ~ 12:15 3号館 331 講義室

OS01. 自伝的潜在連合テスト時の生理活動に関する予備的検討

小川 時洋 (科学警察研究所法科学第四部情報科学第一研究室)

本研究では、自伝的潜在連合テスト(自伝的 IAT)時の自律系生理活動を計測した。自伝的 IAT は、ある命題内容の“真”または“偽”という真理値への結び付けやすさを調べる手法とされている。IAT では、一般に反応時間を指標としている。本研究では自律系生理活動にも IAT 効果が反映されるかどうかを見ることで、自律系生理指標が IAT の補助的な指標となりうるかどうかを検討するための予備的なデータを収集した。

OS02. 心周期は報酬関連刺激の処理を調節する – 事象関連脳電位を用いた検討 –

木村 健太 (産業技術総合研究所)

本研究は、心周期が報酬関連刺激の処理に影響を及ぼすか否かを明らかにすることを目的とした。このため、ギャンブル課題における金銭結果を呈示タイミングに基づき収縮期試行と拡張期試行に分け、金銭結果呈示時の事象関連脳電位を検討した。その結果、金銭報酬結果により生じた報酬陽性電位 (RewP) は、拡張期試行よりも収縮期試行で大きかった。このことは、心周期が報酬関連刺激処理を調節することを示す。

OS03. 「同質の原理」に基づいた視聴覚融合による音楽の供与方法
- 「イメージ奏法」が心身に与える心理学的・医学的検証-

武本 京子（愛知教育大学教育学部創造科学系音楽教育講座）
伊藤 康宏[#]（藤田医科大学）
石原 慎[#]（藤田医科大学）
川井 薫[#]（藤田医科大学）
飯田 忠行[#]（県立広島大学）
加藤 みわ子[#]（広島都市学園大学）

発表者は、楽譜の奥にある作曲者の主張、思想、情動などを読み解き、演奏者の過去の体験、記憶、思考、言語、色彩により音楽が創造する意味を認知し、それを効果的に表現する「イメージ奏法」を確立し研究している。その原理に基づいた視聴者の感情の共感の認知を導くための、演奏と映像による音楽の供与方法について研究した。その結果、心身にどのような影響を与えたかを心理学的・医学的に検証したことを報告する。

OS04. 人間計測とエスノグラフィを統合した製品使用価値の抽出方法に関する研究

梅村 浩之（産業技術総合研究所人間拡張研究センター）
木村 健太（産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター）
藤村 友美（産業技術総合研究所人間拡張研究センター）
安井 圭子[#]（パナソニック株式会社アプライアンス社）

観察～インタビューを経るエスノグラフィ調査は、製品使用時の感性を収集する手法としても有効であるが、着眼点の置き方に観察者の資質・経験が影響するという問題点がある。本報告では実使用場面に近い状況で製品使用中に生理量を測定し、それらを用いて着眼点を探ることで、的確且つ効率的に使用者の感性の理解をしようとする取り組み並びにこの手法を通して得られた生理量の変化と感性の対応について報告をする。

OS05. 情動経験の持続時間と注意持続時間の関係ーどちらが長いかー

金子 迪大（京都大学大学院／日本学術振興会）
鷹阪 龍太（東洋大学大学院）

情動およびその意識経験は一定時間持続するものである。これまで持続の予測要因の検討は行われ、特に情動喚起刺激に対する注意の持続が情動経験の持続を予測することが知られている。本研究では、注意が途切れる前に情動が途切れるのか注意が途切れた後も情動は持続するのかを経験サンプリング法を用いて検討する。

OS06. 不快な濡れ質感のオノマトペ表現

岩佐 和典 (就実大学)

佐藤 太智 (明治大学)

小松 孝徳[#] (明治大学)

本研究では、水分を含む対象物から知覚された不快な濡れ質感と、そのオノマトペ表現との結びつきを検討した。実験参加者 20 名 (mean age = 22.1, SD = 0.70) に対しては、水分量を定量化した刺激画像について、VAS による不快感の強度評定と、質感に対応する触覚オノマトペの選択を求めた。この結果を用いた一連の解析から、特定の水分量や不快感の強度に対応するオノマトペが存在することを明らかにした。

一般研究発表 口頭発表 2

6月30日(日) 10:45 ~ 12:15 3号館 331 講義室

OS07. 情報を繰り返し案内する際の定型案内が鉄道旅客の確信と怒りに与える影響

菊地 史倫 (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

山内 香奈[#] (公益財団法人鉄道総合技術研究所)

輸送障害時には現在の情報を鉄道旅客に繰り返し案内することがあり、案内の最後に定型案内(新しい情報が入りしだい、放送でお知らせします等)をすることが多い。本研究では、定型案内が次の案内放送に新しい情報がある旅客の確信度や期待を高め、繰り返し案内だったときにネガティブ感情を生起させる可能性について検討を行った。その結果、定型案内は旅客の確信度を高め、繰り返し案内時に怒り感情を生起させることが示された。

OS08. 清浄志向/ケガレ忌避傾向尺度の作成と信頼性・妥当性の検討

北村 英哉 (東洋大学社会学部)

松尾 朗子[#] (名古屋大学大学院環境学研究科)

Haidt(2013)の道徳基盤モデルの1つである清浄さ vs 汚染に焦点をあて、特に日本文化を視野におき、清浄さを志向する傾向とケガレを避けようとする傾向について尺度を開発した。当初 48 項目の原版から因子分析を行い 4 因子 29 項目を得た。信頼性係数および再テスト信頼性を検討し、関連すると考えられる嫌悪尺度、アニミズム尺度、不思議現象態度(APPLE)などとの相関を算出し、妥当性の存することを確証した。

OS09. 準備をすれば失敗しない

—準備期間の有無がスピーチ時の「あがり」に与える影響—

小笠原 香苗 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

中川 敦子[#] (名古屋市立大学大学院人間文化研究科)

本研究では、スピーチに対する準備期間の有無が、スピーチ前/中/後の話者にどのような影響をもたらすのかについて、「あがり」と緊張(主観的緊張・生理的緊張)という2つの側面から検討した。参加者は、実験室において2分間のスピーチを行った。結果として、準備期間によって「あがり」が生じにくくなる一方で、スピーチの途中で「あがり」を経験した場合には、準備期間によって生理的緊張が高まることが示唆された。

OS10. 心的取り消しが感謝に及ぼす影響—日常的な親切場面のシナリオを用いた検討—

山本 晶友（上智大学大学院総合人間科学研究科心理学専攻）

樋口 匡貴（上智大学総合人間科学部）

他者から受ける親切への感謝が、その親切を受けられなかった場合のことを想像すると強くなるのかを検討した。参加者の大学生が、同級生から親切を受ける日常的場面のシナリオを読んだ。この時、半数の参加者は親切を受けられない場合にもたらされるであろう結果を、もう半数の参加者は親切を受けることでもたらされる結果を想像・記述し、その後感謝を評定した。その結果、この実験操作による感謝評定値の差は見られなかった。

OS11. 個人内感情制御と対人的感情制御の関係性 —交差遅延モデルを用いた検討—

小林 亮太（広島大学大学院教育学研究科／日本学術振興会）

中島 健一郎[#]（広島大学大学院教育学研究科）

中尾 敬（広島大学大学院教育学研究科）

「自分」の感情を調整することである個人内感情制御についてはこれまで多くの研究がなされてきた。しかし、近年では、「他者」の感情を調整する対人的感情制御に注目が集まっている。本研究では縦断調査を行い、この2つの感情制御の関係性について検討を行った。その結果、自分の感情を制御する傾向の高い者ほど、他者の感情制御の傾向が高いこと、そしてその逆も生じうることが明らかになった。

OS12. 筆記開示法における利用意欲の上昇 —ベースライン期と1ヶ月後フォローアップ期の比較—

大石 彩乃（お茶の水女子大学）

筆記開示法は、ストレス経験への内省を通じ感情制御に正の影響を与えるとされる自助的アプローチであり、ポジティブな側面への内省を促す教示により特に効果が高まるとされている (Segal et al., 2009)。ポジティブな側面への内省を促す教示は、筆記開示法のアプローチを利用すること自体への意欲も高めると考え、大学生 42 名 (M=19.79 歳, SD=1.52) を Positive 群・Negative 群・自由開示群の 3 群に分け、実験を行った。

一般研究発表 口頭発表 3

6月30日(土) 15:15 ~ 16:45 3号館 331 講義室

OS13. 「同類だと思われたら困る」から恥ずかしい? : 観察者羞恥における集団成員性とその顕現化の影響

樋口 匡貴 (上智大学総合人間科学部)

春田 悠佳 (上智大学大学院総合人間科学研究科)

山本 晶友 (上智大学大学院総合人間科学研究科)

林田 愛由[#] (上智大学総合人間科学部/現所属株式会社日立社会情報サービス)

他人の恥ずかしいふるまいを見るだけで、恥ずかしく感じることもある。この観察者羞恥について、行為者の集団成員性と観察者の所属集団の顕現性を操作したシナリオを用いた実験を行った。その結果、行為者と観察者とが同集団の成員でありかつそれが周囲に顕現化されている場合において、もっとも観察者羞恥が高いことが示された。「同類だと思われたら困る」といった評価懸念が観察者羞恥の生起にかかわっていることが示唆された。

OS14. 恋人か、そうでないか、それが問題だ

—主目標の理想度と代替目標の関係を調整する要因についての検討—

服部 陽介 (京都先端科学大学人文学部)

現在の恋人の有無が、恋人候補となる人物の想起数に与える影響について検討した。その結果、恋人がいない個人においては、最初に想起した恋人候補が恋人として理想的であるほど、その恋人候補以外の人物をより多く候補として想起するのに対し、恋人がいる個人においては、その恋人が恋人として理想的であるほど、候補として想起する人物数が少ない傾向がみられた。目標保護理論の観点から、これらの結果について議論した。

OS15. 企業の顔は語る—経営者の笑顔と純利益との関連—

藤原 健 (大阪経済大学)

本研究では、経営者の表情が企業の成績と関連するのかを検討した。まず、Fortune 誌 Global 500 を用いて企業の純利益を収集した。次に、各企業の公式 HP から経営者の顔を取得し、これに機械学習(Face API, Microsoft)を適用することで笑顔の強度を計測した。その結果、経営者の笑顔の強度が企業の純利益と正の相関を示すことが分かった。集団を代表する個人の表情は、その集団の状態を表す可能性が示唆された。

OS16. 平成の終わりにわれわれは何を感じるか？

白井 真理子（同志社大学）

木村 年晶（京都橘大学）

2019年4月31日をもって、平成という時代が終わる。平成の終わりについて、われわれがどのように感じるのかを明らかにするため、大学生73名を対象に平成の終わりに対して感じる感情についての調査を行った。また、平成という時代に思い入れが強いほど、混合感情が生じるとの仮説を立て、思い入れに関しても同様に回答を求めた。結果、平成に思い入れが強い群は弱い群よりも、悲しみと喜びが共起した感情状態にあることが示された。

OS17. からかい・いじめ強化に対する教室の協調的文脈と妬み特性の効果

一言 英文（福岡大学人文学部）

澤田 匡人（学習院女子大学国際文化交流学部）

いじめは、それを助長する「間接的強化」と「からかい」に基づく相互作用が問題であるという観点(Hitokoto & Sawada, 2016)に立ち、妬み特性と、上記の文脈だと考えられる教室の協調性を、39学級1205名の日本人中学生を対象に調査した。結果、教室の協調性が間接的強化・からかいを正に説明し、からかいを負に説明する個人の良性妬み特性が教室の協調性によって負に調整されることが示唆された。

OS18. 感謝行動が日常生活に与える変化

牧 久美子（龍谷大学大学院文学研究科）

大学生を対象に任意で約3ヶ月間にわたり感謝の実践（感謝の対象は何でもよく、「○○、ありがとうございます」と感謝のことばを毎日言う）をしてもらい、実践後に感想を記述してもらった。その結果、54名から回答を得られた。本研究は、大学生が感謝の実践をどのように体験していたのか、実践することでどのような変化が生じたのかを検討し、探索的にモデル（仮説）を生成することを目的とする。

一般研究発表 ポスター発表 1

6月29日(土) 9:00 ~ 10:30 4号館 428 講義室

*奇数番の発表者の責任在席時間は9:00~9:45, 偶数番の方の責任在席時間は9:45~10:30です。

PS01. 「うらみ」と反芻および自閉症スペクトラム障害との関連性

—再評価方略の調整効果への着目—

鈴木 拓朗 (東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻臨床心理学コース)

本研究では、「うらみ」と反芻、自閉症スペクトラム障害 (ASD) の関連性を検討することを目的とした。まず「うらみ」は反芻に影響を与え、認知的再評価方略がその影響を調整すると仮説をたて検証を行った。その結果、再評価方略を用いる傾向が低い群においてのみ「うらみ」が反芻 (ネガティブな内省) に正の影響を与えた。次に「うらみ」と ASD の関連性を検討したところ、ASD 傾向が高い群の方がより「うらみ」やすいことが示された。

PS02. 制御焦点と認知的感情制御が後悔とその後のポジティブな変容に及ぼす影響

伊藤 拓 (名古屋大学教育発達科学研究科)

本研究では、ネガティブ感情でありながら様々なポジティブな変容を引き起こすことが示唆されている後悔に着目し、個人の制御焦点と後悔に対して用いられる認知的感情制御が、後悔とその後生じるポジティブな変容に与える影響を検討した。共分散構造分析の結果からは、個人の促進焦点によって、後悔を低減したり、ポジティブな変容を引き起こしやすい認知的感情制御の方略がそれぞれに異なっていることが示唆された。

PS03. ポジティブに考え続けるほど良い? : 肯定的再評価の実施時間と効果の関連

榊原 良太 (鹿児島大学)

出来事や状況をポジティブに捉え直す「肯定的再評価」は、多くの研究において効果的な感情制御方略であることが示されてきた。一方で、肯定的再評価の効果が、それを実施する時間にどの程度規定されるのかという点については、これまで具体的な検討はなされていない。そこで本研究では、不快画像を用いた実験により、異なる実施時間における肯定的再評価の効果 (不快画像への評価、気分) の検証を行った。

PS04. ネガティブな気分に対する反応スタイルの適応性と注意機能の関連性の検討

石川 遥至（早稲田大学文学学術院）

越川 房子（早稲田大学文学学術院）

反応スタイル理論 (Nolen-Hoeksema, 1991) は、ネガティブな気分に対する反応として考え込み反応と気そらし反応の2つを提唱した。近年の研究では、双方の反応スタイルが適応的な様式にも不適応的な様式にもなり得ることが指摘されている。しかしながら、こうした反応スタイルの適応性に包括的に影響する要因は十分に検証されていない。そこで本研究は、反応スタイルの適応性と注意機能の関連に着目し、媒介分析による検討を行った。

PS05. 心拍弁別課題における反応バイアスは認知的再評価と関連するか

本多 樹（広島大学大学院教育学研究科）

小林 亮太（広島大学大学院教育学研究科）

中尾 敬（広島大学大学院教育学研究科）

反応バイアスとは、2種の刺激を与えられ正誤を求められた際に個人が Yes または No と答えやすい傾向のことである。先行研究では、心拍弁別課題において No と答えやすい個人は感情制御を促進する要因であると考えられる感情識別能力が高いことが示されている。そこで、本研究は反応バイアスと感情制御（認知的再評価）の関連を検討した。その結果、刺激に対し No と答えやすい個人は認知的再評価を用いる傾向が高いことが示された。

PS06. タッピングタッチはどんな人にも効果があるのか？ その8

一他者からの否定的評価に対する恐れを調整変数として一

大浦 真一（甲南大学）

松尾 和弥（甲南大学大学院）

福井 義一（甲南大学文学部人間科学科）

本研究では、他者からの評価を恐れる（評価懸念）者は、タッピングタッチ（TT）実施時にペアになった相手の反応を気にして、効果を十分に感じられないという仮説から、評価懸念の高低による TT の効果の違いを検討した。その結果、評価懸念の高低によらず、TT はほとんどの変数において効果を示し、一部の変数においては、評価懸念高群で、より大きな効果が見られた。TT は評価懸念の高い場合により大きな効果を示すことが分かった。

PS07. 敏感さメタ認知と生理的知覚の関係

—自己報告における敏感さと触覚測定値の不一致—

上原 智香子（明治大学大学院情報コミュニケーション研究科）

実験心理学的アンケート手法により大学生から 50 代までの男女 117 人を調査した結果、敏感さの自己評定（HSP および自己報告）と生理的知覚（圧覚感受性）測定値に不一致が認められた。HSP 高低と敏感さの自己報告は異なる傾向を示した。知覚測定値は敏感ではないのに HSP が高い人は多次元共感性・他者志向性と正の関係があり、論理思考と負の関係があった。知覚が敏感ではないのに自分は敏感であると自己報告する人は協調性と関係があった。

PS08. 内受容感覚の鋭敏さと、心拍変動—感情体験の相関性に関する検討

—心拍タッピング課題による内受容感覚の評価—

櫻井 優太（田園調布学園大学人間科学部心理学科）

清水 遵[#]（愛知淑徳大学心理学部）

自身の生理的状態に関する感覚（内受容感覚）の鋭敏性には個人差があるとされている。内受容感覚は感情と関連し、内受容感覚が鋭敏な者は感情が変動しやすく状態不安が高いことなどが報告されているが、正反対の傾向も認められており未だ不明点が多い。本研究では、心拍タッピング課題によって内受容感覚の鋭敏さを測定し、これが感情喚起スライド（IAPS）呈示時の心拍変動と感情体験の相関性に影響しているか否かを検討した。

PS09. 悲しみ想起後のフォーカシング技法を用いた音楽聴取がもたらす心理・生理的反応③

—フォーカシング指向音楽聴取教示の影響—

栗野 理恵子（名古屋産業大学）

清水 遵[#]（愛知淑徳大学）

フォーカシング教示の心身への影響は、内的な体験過程を音楽聴取後に振り返る作業によって効果的に持続すると考えられる。そこで本研究では、音楽聴取後の安静区間を音楽聴取直後の振り返り実施前（後安静前半）と振り返り後（後安静後半）に分け、教示の有無の影響を心理・生理両指標から検討した。その結果、両指標の効果の乖離が教示あり条件で後安静後半に生じ、この乖離がフォーカシング指向音楽聴取教示の特徴と考えられた。

PS10. テレビ番組視聴による不安低減とレジリエンス効果

—「水曜どうでしょう」の視聴者インタビューと実験を通して—

広田 すみれ（東京都市大学メディア情報学部）

岩淵 睦生（東急バス(株)）

内野 陽二郎（東急ファシリティサービス(株)）

曾根 大誠（(株)キャンドックシステムズ）

TV 番組「水曜どうでしょう」の視聴者の間では視聴で不安低減効果があるとされるが、これを実験と視聴者インタビューから検討した。実験では3番組の20分の視聴による不安からの快復量を状態不安尺度で比較した結果、視聴後の快復量は有意だったが、番組間の差は見られなかった。インタビューと合わせて考えると、効果は長時間視聴で生じ、快復は番組内の笑いへの模倣や出演者の声の感情伝達から生じていることが推測された。

PS11. 有能感の4類型と返礼行動の関連——仮想型に注目して——

澄川 采加（鹿児島大学大学院教育学研究科）

稲垣 勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

本研究は有能感の4類型の一つである仮想型に注目し、その返礼行動の特徴を検討した。大学生・院生175名を対象とした質問紙実験の結果、仮想型は他の類型と返礼の量的特徴の違いは見られなかった。一方で質的特徴の違いが見られ、仮想型は他の類型と比べて、「食事を奢る」という返礼行動を行う者が多かった。さらに、援助を受けた際に、他の類型より「驚き」「申し訳ない」などのネガティブ感情を喚起しやすいことがわかった。

PS12. 有能感の4類型とソーシャルスキルの関係

稲垣 勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

澄川 采加（鹿児島大学大学院教育学研究科）

本研究は、自尊心と他者軽視傾向の組み合わせによって定義される有能感の4類型と、ソーシャルスキル（Social Skill：以下SS）との関連を検討した。176名の大学生・大学院生を対象に調査を行い、SS尺度得点を従属変数、有能感の4類型および性別を独立変数とした分散分析を行ったところ、萎縮型、仮想型は全能型、自尊型と比してSSが低いことや、仮想型において女性は男性よりSSが低いことが見出された。

PS13. 児童期における役割取得能力と道德性の発達段階の関係

本間 優子 (新潟青陵大学)

本研究は、小学3、4年生を対象に役割取得能力と道德性の発達段階の関連を検討した。それぞれの発達段階を算出し、一致度を検討した結果、両者が一致しているものは、117名中71名(60.7%)であった。残りの39.3%については、41名(35.0%)が役割取得能力の発達段階よりも道德性の発達段階の方が1段階低く、5名(4.3%)が逆に、道德性の発達段階の方が役割取得能力の発達段階よりも1段階高いことが示された。

PS14. 中学生における感情制御方略と学校適応感の関連

ーソーシャル・サポートを媒介変数としてー

北原 祐理 (東京大学大学院教育学研究科)

本研究では、中学生に質問紙調査を行い、感情制御方略と、友人及び教師からのソーシャル・サポート、学校適応感の関連を検討した。その結果、認知的再評価は、友人からのソーシャル・サポートを介して学校適応感に正の影響を与えていた。一方、抑制については性差があり、女子では学校適応感に対して友人からのソーシャル・サポートを介した負の間接効果を示したが、男子では抑制とソーシャル・サポートの関連は認められなかった。

PS15. 前期高齢者において「むなしさ」が感じられやすくなる要因の検討

大上 真礼 (東海大学文化社会学部)

むなしさは精神的健康に関連する感情と考えられ、変化や喪失が多くなる高齢期に感じられる可能性が考えられる。本研究では前期高齢者における主観的なむなしさの有無に、属性(年齢や性別)、自身の老いや一般的な高齢者についてのイメージがどう影響するか検討した。596名分の回答データのロジスティック回帰分析の結果、男性であること、年齢の高さ、自身の老いへの自覚の低さが主観的なむなしさの有無を予測することが明らかになった。

PS16. 看護教育における感情的エンゲージメントに関する文献検討

石井 慎一郎（自治医科大学看護学部）

田村 敦子[#]（自治医科大学看護学部）

富川 明子（自治医科大学看護学部）

白濱 雅子[#]（自治医科大学大学院看護学研究科博士課程）

路川 達阿起[#]（自治医科大学大学院看護学研究科博士課程）

看護における省察は、臨床的にも教育的にも注目されており、学生にとって学習の向上も報告されている(Vaz&Prado, 2014)。しかし、授業の課題としての感想は、結果や評価の混在が大半である。感情は学習への意欲や主体的な取り組みに影響を与え、感情的エンゲージメントとして機能する(鹿毛, 2013)。そこで、看護における感情的エンゲージメントに関する国外文献を概観し、実態と課題について明らかにする。

PS17. シャーデンフロイデと社会的階層との関連

相羽 将智（広島大学総合科学研究科）

坂田 桐子[#]（広島大学総合科学研究科）

本研究では社会的比較理論に着目して、シャーデンフロイデの性質を明らかにすることを目的とする。実験参加者を自分より優秀な A さん(優秀条件)、自分と同じぐらいの A さん(同等条件)、自分より劣った A さん(劣等条件)を想起させる条件にランダムに配置した。その後、妬み場面と不幸場面を呈示し、それぞれの場面での感情と学内における自分と A さんの社会的階層の測定を行い、条件ごとに分析を行った。

PS18. 制度に対する不備の知覚が他者批判的感情に及ぼす影響

福田 哲也（聖カタリナ大学人間健康福祉学部）

本研究では、現状の制度に対する不備の知覚が、他者批判的感情である軽蔑、嫌悪、怒りに影響を及ぼすのかを検討した。参加者には制度の不備を知覚させるシナリオと知覚させないシナリオのいずれかを呈示した。その後、社会的ルールを破った人物に対する感情の程度を尋ねた。その結果、不備を知覚するシナリオが呈示された参加者は、もう一方のシナリオが呈示された参加者よりも、嫌悪と怒りが強く生じる傾向が見られた。

一般研究発表 ポスター発表 2

6月30日(日) 9:00 ~ 10:30 4号館 428 講義室

*奇数番の発表者の責任在席時間は9:00~9:45, 偶数番の方の責任在席時間は9:45~10:30です。

PS19. 科学的知識と説明責任は顔にもとづく信頼性判断を抑制できるか

鈴木 敦命 (東京大学大学院人文社会系研究科心理学研究室)

人は他者の信頼性をその顔から推測する傾向をもつが、その予測的妥当性は限定的である。そのため、顔にもとづく信頼性判断は避けるべきものとされるが、その低減法はわかっていない。そこで、本研究は、顔から人の特性を知ることは困難だという科学的知識と信頼性判断の根拠の説明責任の効果を検討した。結果として、科学的知識は説明責任が課された場合においてのみ顔にもとづく信頼性判断を低下させることが示唆された。

PS20. 笑顔表情の主観的強度が表情フィードバック効果に及ぼす影響

橋本 淳也 (広島大学大学院教育学研究科)

難波 修史 (広島大学大学院教育学研究科)

中尾 敬 (広島大学大学院教育学研究科)

近年、表情フィードバック効果の再現性の低さが問題として挙げられている。そこで本研究では表情フィードバック効果の規定因を明らかにすべく、笑顔表情の主観的な強度が表情フィードバック効果に及ぼす影響について検討を行った。実験の結果、笑顔表情を主観的に強く作成するほど、快感が高まっており、表情の主観的強度が表情フィードバック効果の規定因となることが明らかとなった。

PS21. 日常生活行動と随意的な笑顔表出との関連

中川 文香 (株式会社資生堂)

本研究では日常生活行動と表情との関連の検証を目的とし、生活行動アンケートと随意的な笑顔動画の取得実験を行った。生活行動は27項目を主観評定した。表情計測は参加者の随意的な笑顔動画を表情解析ソフトにより解析し笑顔関連スコアを算出した。主観評定と各スコアについて重回帰分析を行った結果、直接人と話す機会が多い等の生活行動と笑顔の大きさとの関連が示され生活行動の違いが表情表出に影響する可能性が示唆された。

PS22. 愛着スタイルが喜び表情と怒り表情の弁別に及ぼす影響

松尾 和弥（甲南大学大学院人文科学研究科／日本学術振興会 DC2）

大浦 真一（甲南大学／国際心理支援協会）

島 義弘[#]（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

稲垣 勉（鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系）

福井 義一（甲南大学文学部人間科学科）

本研究では、愛着スタイルが、喜び表情と怒り表情の弁別に及ぼす影響を検討した。大学生 98 名を対象に、愛着スタイルの項目を含んだ質問票調査と表情の弁別課題を実施した。表情の弁別課題では、喜びと怒り表情を段階的に合成させた 11 種類の刺激セットを使用し、参加者に各表情刺激の情動価を喜びと怒りの二択から選択するよう求めた。一般化線形混合モデルによる分析の結果、愛着スタイルの有意な効果はみられなかった。

PS23. サイコパシー特性による利己的な表情認知—顔表情の検出における視線方向の影響について—

大隅 尚広（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所／慶應義塾大学先導研究センター）

本研究では、視線方向の異なる怒りもしくは恐怖の顔表情の検出についてサイコパシー特性の影響を検討した。実験の結果、恐怖の表情に対しては、視線が正面を向いている場合にサイコパシー特性によって反応時間が遅延したが、視線が逸れている場合にはサイコパシー特性による反応時間の遅延が認められなかった。この結果から、サイコパシー特性には、自身の危険を知らせる恐怖表情の認知については問題がないことが示唆された。

PS24. 表情変化に対する敏感さは対人場面における表情模倣に関与するのか

—N170 を用いた検討—

谷田 林士（大正大学心理社会学部）

44 名の参加者是对話課題の聞き手の役割となり、話し手の実験協力者が嬉しい話をしている際の大頬骨筋電位が測定された。その後、ニュートラル表情を標準刺激、情動表出の表情をターゲット刺激としたオドボール課題が実施され、その事象関連電位が測定された。対人場面における表情模倣と ERP との関連を調べた結果、大頬骨筋の活性の程度とターゲット刺激に対する N170 の振幅の間に有意な相関がみられた。

PS25. 「経験した人にしかわからない」という感情

—発信者のパーソナリティ特性と受信者の感情—

川口 めぐみ（駒澤学園駒沢女子短期大学）

痛みや苦しみ、悩みを抱えているとき、「この気持ちは経験した人にしかわからない」と表現する人がいる。この言葉は発言者の心理的苦痛がよく伝わるが、時に相手とのやりとりを遮断する重たい言葉にもなる。本研究では、この言葉の発信者のパーソナリティ特性と、受信者側の感情変化を明らかにし、対人援助場面における応用について検討する。

PS26. 主要 5 因子性格特性と日常の感情経験：経験サンプリング法を用いた調査

大坪 庸介（神戸大学大学院人文学研究科）

本研究では、59 人の大学生参加者に主要 5 因子性格検査及び睡眠の質に関する質問紙に回答してもらった後、経験サンプリング法により、1 週間ランダムなタイミングでその時に経験している感情を報告してもらった。その結果、神経症傾向は悲しみ・怒り・不安を経験する頻度と有意な正の相関関係を示した。一方、外向性と協調性は怒りを経験する頻度と有意な負の相関関係を示した。睡眠時間は悲しみ・不安の頻度と負の相関を示した。

PS27. 情動コンピテンスの個人差

柴田 利男（京都橘大学健康科学部）

大学生を対象に情動コンピテンスの個人差の分類を試み、対人行動、感情特性、対人スキルとの関連性について検討した。クラスター分析の結果、情動コンピテンスのパターンは 4 群に分類された。情動コンピテンスの高さは対人行動の量とスキルの高さ、ポジティブ感情特性の高さと関連していることが明らかとなった。

PS28. 災害を生きる力因子に寄与するパーソナリティ特性：感謝特性，グリット，セルフコントロール

本多 明生（静岡理工科大学情報学部）

杉浦 元亮[#]（東北大学）

阿部 恒之（東北大学大学院文学研究科心理学講座）

邑本 俊亮[#]（東北大学）

Sugiura et al (2015) は、東日本大震災被災者に対する調査から「リーダーシップ」「問題解決」「愛他性」「頑固さ」「エチケツト」「感情制御」「自己超越」「能動的健康」から構成される災害を生きる力因子を見出した。本研究では、災害を生きる力因子に寄与するパーソナリティ特性を検討した結果、性別やビッグファイブの影響を制御しても、感謝特性，グリット，セルフコントロールが寄与することが示された。

PS29. 繰り返し想起される自伝的記憶の想起特性について

－ 記憶経験質問紙（Memory Experience Questionnaire）を用いた検討－

関口 理久子（関西大学社会学部）

Sutin Angelina[#]（Florida State University, College of Medicine）

本研究では、大学生に繰り返し想起された自伝的記憶について記憶経験質問紙により、また当時の感情を PANAS により評定を求めた。結果、肯定・否定感情とも感情強度と、肯定感情のみ感情的詳細さと正の相関が認められた。感情調節方略の再評価と抑制、反芻反応尺度の考えこみと反省的熟考を独立変数として重回帰分析を行ったところ、考え込みは感情強度、反省的熟考は情動価の低さ、抑制は他者との共有の低さを有意に予測した。

PS30. 不随意記憶現象における気分一致記憶の検討

野村 拓央（名城大学大学院人間学研究科人間学専攻修士課程）

記憶と感情が密接に関わる代表的な現象に気分一致記憶が挙げられる。これまで行われてきた気分一致記憶研究では、その手続きの中で参加者に自伝的記憶や呈示刺激の意図的な想起を求めているものが多い。しかし無意図的に想起された自伝的記憶である、不随意記憶を対象とした気分一致記憶研究はあまり行われていない。本研究では不随意記憶現象における気分一致記憶について、条件の統制された実験室内環境で検討していく。

PS31. SNS のテキスト分析による道徳的怒りと道徳的嫌悪の弁別性の検討

小西 直喜（神戸大学大学院人文学研究科）

大坪 庸介（神戸大学大学院人文学研究科）

道徳的違反を観察すると、人は怒りや嫌悪を経験する。しかし、道徳的怒りと道徳的嫌悪は、いずれも道徳的非難を表出する弁別不可能な同一の感情とみなす向きもある。本研究では、ある大学の運動部の不祥事に対して投稿された SNS 上の非難コメント 573 件を収集し、テキスト分析を行なった。その結果、怒りを表出する投稿には公平・忠誠・権威に関わる単語、嫌悪を表出する投稿には純潔さに関わる単語が多く含まれる傾向があった。

PS32. 被害者からの赦しによる加害者の罪悪感への影響

古川 善也（愛媛大学教育学部／広島大学教育学研究科）

中島 健一郎[#]（広島大学教育学研究科）

古川・森永(2016)において、被害者からの赦しは加害者の罪悪感の低下に寄与しないことを示した。本研究では古川・森永(2016)における赦し操作の問題点(被害の程度の認知との交絡の可能性)を棄却する赦し操作の予備調査を行った上で、再度、被害者の赦しによる罪悪感の影響について検討を行った。その結果、古川・森永(2016)と同様に、赦しの有無によって参加者の罪悪感の程度に違いは認められなかった。

PS33. 面子回復行為に関する日中比較一日中大学生を対象に

林 萍萍（大阪商業大学 JGSS 研究センター）

本研究では、面子を失った時に日中大学生がどのように自分の面子を回復するかを検討するために、日中大学生を対象に、5 場面について 15 種類の面子回復行為をどの程度使用するかを評価させた。その結果、日本人は笑ってごまかすことをより使用するのに対して、中国人は意見統合、言い訳、ユーモアをより使用することが示唆された。15 種類の面子回復行為について因子分析を行った結果、下位因子に含まれる項目には日中差が見られた。

PS34. 共感性を客観的に測定する MET-CORE2 日本語版の妥当性の再検討 (2)

—自閉症スペクトラム群と健常群における比較検討—

福井 義一 (甲南大学文学部人間科学科)

松尾 和弥 (甲南大学大学院)

大浦 真一 (甲南大学大学院人文科学研究科)

稲垣 勉 (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

島 義弘# (鹿児島大学学術研究院法文教育学域教育学系)

共感性を客観的に測定する Multifaceted Empathy Test の最新版である MET-CORE2 日本語版 (福井他, 2017) の弁別的妥当性を検討するために, 原版作成時と同様に自閉症スペクトラム群と健常群の認知的・情動的共感性を比較した結果, 前者の認知的共感は, 後者よりも有意に低いものに対して, 情動的共感については両群間に有意差がないことが分かった。MET-CORE2 の日本語版に十分な弁別的妥当性があることが示された。

PS35. 特性尊敬関連感情と理想自己のレパトリーの関連

菅原 大地 (筑波大学)

武藤 世良 (お茶の水女子大学)

本研究では, 尊敬に関わる感情特性と理想自己のレパトリーの関連を検討した。大学生 187 名を対象に特性尊敬関連感情尺度 (武藤, 2016) と理想自己について記述するように教示方法を変更した Twenty Statement Test (Kuhn & Mcpartland, 1954) への回答を求めた。重回帰分析の結果から, 特性尊敬は理想自己に関する記述数を増加させ, 特性畏怖は減少させる可能性が示された。

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
http://www.kitahoji.com

手作りの悲嘆

「死別について語るとき〈私たち〉が語ること」 L.ヘツキ・J. ウィンズレイド著 小森康永・奥野 光・ヘミ和香訳 A5・336頁・本体3900円＋税 悲嘆の痛みをやり過ごす最も良い方法は、既製のモデルに従うのではなく、その人自身の反応を「手作りすること」にある。社会構成主義の立場から、死の臨床における治療的会話の新たな枠組みを示す。

マインドフルネス認知療法ワークブック

「うつと感情的苦痛から自由になる8週間プログラム」 J. ティーズデール・M. ウィリアムズ・Z. シーガル著 小山秀之・前田泰宏監訳 B5・256頁・本体3600円＋税 MBCTの開発者らによるワークショップを、オリエンテーションからエクササイズ、Q&A、ホームワークまで、リアルに再現。読者の洞察を深めるために、参加者の声と対話も多数紹介。

シリーズ 心理学と仕事16 司法・犯罪心理学

太田信夫監修 桐生正幸編集 A5・160頁・本体2100円＋税 誕生からまだ歴史の浅い「司法・犯罪心理学」の定義や理論、研究と実務などを説明し、関連する各組織における具体的な仕事と研究知見、防犯、具体的な犯罪について解説。基本と応用の両面から捉え、国家資格「公認心理師」めざす人のために幅広い視点で学べるよう構成を工夫。

たのしいベイズモデリング

「事例で拓く研究のフロンティア」 豊田秀樹編著 A5・240頁・本体2700円＋税 国内の研究者によるライブ感あふれるデータ分析事例集。新しい時代の統計データ分析の方向性として、「尤度によって現象を考える研究パラダイム」へと誘う。19の多彩な事例で、「心理現象の一般法則の確立」と「個性の有り様の記述」の両者を同時に表現する道を拓く。

心の治療における感情

「科学から臨床実践へ」 S. G. ホフマン著 有光興記監訳 A5・224頁・本体2700円＋税 感情は、精神的健康の重要な決定因である。心理学的介入に関心のある臨床家や医療従事者に向けて、感情研究の基礎的な理論と知見を解説。生物学と神経科学、社会心理学、パーソナリティ心理学、動機づけ、近年のマインドフルネス取組法に至るまでを網羅。

シリーズ 心理学と仕事9 知能・性格心理学

太田信夫監修 浮谷秀一編集 A5・192頁・本体2300円＋税 前半では、知能の基本的な知識、とらえ方、構成要素、測定方法を説明。後半では、性格にまつわる様々なことばの適切な使い方や類型論と特性論を中心に理論的側面を詳説し、知能と性格の密接なつながりを明らかにする。また、感情とのつながり、測定方法、仕事との関連について取り上げる。

犯罪行動の心理学 [原著第6版]

J. ボンタ・D. A. アンドリュース著 原田隆之訳 A5上製・544頁・本体6500円＋税 膨大なデータに基づいた犯罪リスク要因を示し、科学的知識をもとにしたアセスメントや治療サービスという実践に導く。人間の個性や多様性への畏敬の念と心理学の実践を結びつけ、その重要性を示す。世界中の犯罪・司法臨床現場に影響を与えた原著第6版。

心理学パーシク 第5巻 なるほど！心理学面接法

三浦麻子監修 米山直樹・佐藤 寛編著 A5・272頁・本体2400円＋税 心を深く探ることができる研究法であるが、対象者と直接関わるための臨床的な技術が求められる難しさがある。本書では、アセスメントで求められる技術と方法、面接データの解析、臨床面接法について体系的に概説し、研究および臨床の両軸を念頭に広く深い視野の提供を目指す。

心理学って面白そう！
どんな仕事で活かされている？

シリーズ 心理学と仕事 [全20巻]

シリーズ 監修 太田信夫

●A5判・約160～220頁・予価2000～2600円＋税

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

アンケート用紙・調査票の入力はお任せください

データ入力(専用機、パソコン)

「専用機入力は2度入力を行い正確性を確保します」

DMラベル作成、貼付、発送 名簿管理

文字起こし etc. その他付随する作業は何でも行います

ex. 設問100 + 言葉記入あり + 用紙設計は自由
⇒ 1部当り 100円前後で入力できます (部数は問いません)

入力でお困りの時は！！

YKS株式会社

〒454-0911 名古屋市中川区高畑5-108 サンフォーレ八田101

TEL 052-362-2782 FAX 052-362-2783

E-mail : ohtake@yacht.ocn.ne.jp

担当 大竹幹男 (携帯 090-1294-6944)

お気軽にご連絡ください (遠方でも伺います)

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111
FAX 075-723-0095

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15
<http://www.nakanishiya.co.jp/> [表示は税抜価格]

心理学概論

◎ヒューマン・サイエンスへの招待
松田幸弘 編著
必要な基礎的知識をコンパクトに整理し、公認心理師などの資格取得にも役立つ入門書。
2500円

夢のフロンティア

◎夢・思考・言語の三元論を超えて
マーク・J・プレッツユナー 著
鈴木健一 監訳 / 小池哲子 訳
夢は人間の心理や脳について何を語り、何に貢献するのか。
3600円

人工感情

◎善か悪か
福田正治 著
AIはどのように進化していき、人間とどのような関係を結ぶのか。神経行動科学者である著者が「感情」という視点から解きほぐす。
1800円

尊敬関連感情の心理学

武藤世良 著
敬愛、心酔、畏怖、感心、驚嘆——誰かを尊敬しその人と関係を築いていくことは人にどのような影響を与えるのか。実証的研究から迫る。
10500円

福祉心理学の世界

◎人の成長を辿って
中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志 編
人生の各段階で繰り返し現れてくる違和の解決に向けて、心理学を学び、社会に発信できる力を育む。
2100円

パーソナリティ心理学入門

◎ストーリーとトピックで学ぶ心の個性
鈴木公啓・荒川歩・太幡直也・友野隆成 著
4人のユニークな登場人物の会話を通して、楽しみながら学べる。
2000円

心理学概論

◎こころの理解を社会へつなげる
日比野英子 監修
心理学の世界を紹介する地図となる入門テキスト。基礎から応用まで、心理学への興味が高まる構成。
2400円

触覚の心理学

◎認知と感情の世界
田崎権一 著
触覚から改めて精神・教育・医学・芸術の世界を眺め、触覚の科学と人間生活・文化との関係を考察する。
2500円

情念の継承

◎感情記憶と「型」の発見
福田正治 著
古典芸能や芸術、工芸において人間の情念はどう継承されるのか？ 心理学や脳科学の観点から論じる。
1600円

感情制御の精神生理学

◎不快の認知的評価
手塚洋介 著
代表的理論やモデル、ネガティブ感情を扱った実験を通して、認知的評価の感情制御機能について探究。
4800円

保健と健康の心理学

◎ポジティブヘルスの実現
大竹恵子 編著
心身の健康と充実した人生を目指す新しい健康心理学概論。
3400円

公認心理師のための説明実践の心理学

山本博樹 編著
公認心理師の説明責任とは何か。公認心理師が各分野・各領域で要請される説明とその質について提言。
2000円

日本感情心理学会第 27 回年次学術大会

賛助団体ご芳名

協賛・広告・展示

株式会社 北大路書房

株式会社 ナカニシヤ出版

YKS 株式会社

大会開催助成

公益財団法人 大幸財団

東海学園大学

(五十音順)

本大会の開催にあたり、上記の諸団体より多大なご支援を賜りました。

ここに、ご芳名を記して感謝の意を表します。

2019 年 5 月

日本感情心理学会第 27 回大会実行委員会

大会委員長 河野 和明

日本感情心理学会第 27 回大会実行委員会

委員長	河野 和明 (東海学園大学)
顧問	奥田 達也 (東海学園大学)
副委員長	羽成 隆司 (椋山女学園大学)
事務局長	伊藤 君男 (東海学園大学)
大会主委員	高田 琢弘 (東海学園大学)
	松尾 朗子 (東海学園大学)
	山川 香織 (東海学園大学)
大会委員	高橋 晋也 (東海学園大学)
	樋町 美華 (東海学園大学)
	三宅 理子 (東海学園大学)

〒468-8514 愛知県名古屋市天白区中平 2-901

東海学園大学 心理学部心理学科

jsre2019.tokaigakuen@gmail.com